

### 商学研究科公開講座「中小企業のASEAN進出と人材育成」

# 雇用の現状と対応策を討論



業のASEAN進出と人材育成」が7月29日、神田キャンパスで開かれた。経済成長著しいASEAN域内での雇用の現状と対応策について講演

大学院商学研究科(建部宏明商学研究科長)と東京信用保証協会の第14回共同公開講座「中小企

と討論が行われ、経営者や企業関係者ら約80人が参加した。人件費が安く日本から近いASEAN諸国は生産拠点の移転先、消費市場として注目されている。一方で、人々はより高給な仕事に転職するため、先行して進出した企業の中には高い離職率に悩み、撤退を検討するところも。域内10カ国の出身者はビザなしで移動できるため不法労働者も多く、進出先での人材の確保・育成は大きな課題になっている。

## 「古墳時代の渡来人―西と東―」シンポジウム

### 古代史ファン聴き入る

社会知性開発研究センター/古代東ユーラシア研究センター(飯尾秀幸 研究代表)の今年度1回目「古墳時代の渡来人―西と東―」が7月15日、神田キャンパスで行われた。日本の古代国家形成期にさまざまな形で地域の発展を促した渡来人の足跡を、遺構の造りや遺物の出土状況をもとに土生田純之文学部教授をはじめ3人の考古学者が語り、研究者や古代史ファンなど380人を超える参加者が聴き入った。

福岡大の武末純一教授は、北部九州における弥生時代から4世紀までの日韓交流について解説した。「農業の始まりや吉野、馬の飼育をもたらしたと説明。『個々の地方豪族と渡来人の交流に5

社で給料も高くないが、ベトナム人の共同経営者がよく気配りしている。海外展開では信頼できるビジネスパートナーの存在が大きい」と述べた。パネルディスカッションは、中小企業基盤整備機構で国際化支援アドバイザーを務める山本恵氏も加わり、小林守商学研

究科教授(国際経営)の司会進行。山本氏はASEAN各国の製造業の最低賃金や、日系進出企業の部品の現地調達率を示し、「コスト削減の確実な方法は、人材を教育し生産性を上げること。優秀な駐在員の丁寧な技術指導を勧めたい」と語



会場には多くの古代史ファンが詰めかけた

世紀後半ごろから畿内の倭王権が規制を強め、渡来人を王権中枢に取り込んでいった」と語った。東日本の渡来人を取り上げた土生田教授は、西倭人の墓が同じ形状(丸型の積み石塚)であると

江(静岡県浜松市)、北信濃(長野県)にある5世紀後半の遺跡や古墳群の相違点を説明した。北信濃では渡来人と在来の倭人の墓が同じ形状(丸型の積み石塚)であると

マーケティング・マインドとイノベーション  
Marketing Mind and Innovation  
田口冬樹著

マーケティングという用語は、さまざまなところで使われている。格好がよくて、時代の先端をいくスタイリッシュなイメージがあるが、その意味や内容についてしっかりと理解されているかというときわめて怪しい状況だ。セールの違いを明確に理解している人はそれほど多くはない。本書は、そうしたマーケティングのあいまいさをポストデジタル時代の公共図書館

内野明商学研究科教授(経営科学)は、タイやベトナムなどメコン地域に進出した日系企業の人材育成についてグローバルリレーションを前提とした共存共栄の関係づくりを説いた。実態調査などについても、継続して働いてもらうためには、空調や食事など職場環境の整備に加えて、年功賃金を反映させるなど状況に応じた対応が必要だと指摘。「中長期の経営戦略を持ち、いずれ現地社

のビッグタイトル二つを手に入れた。今年度は学生本因坊戦を連覇。これまで学生十傑戦など学生の主要棋戦のすべてを制している。また、世界学生王座戦2連覇に加え、7月タイ・パノクで行われた世界大

プログラム(JLC)の春期コース(5〜6月、4週間)と、夏期コース(6〜8月、7週間)参加の短期留学生らと衣食住を共にした。夏期コースの留学生を日本の卒業式で送るとともに、自分たちの退寮の区切りしようとしてRPが企画した。式では、JLCの短期留学生と長期滞在の特別聴講生計28人が胸に花飾りをつけ入場。同会館で学生スタッフとしてサポートしてきたレジデント・アシスタント(RA)5人が「来賓」として「日本に来てくれてありがとう」などとあいさつした。

デジタルサービスが社会に浸透し、情報環境の新たな時代に入ったといえる。しかし、わずかに数十年前には、文字情報の大半が印刷出版物として流通し、モノとして保存することが一般的な時代であった。ウェブによる情報検索が当然視される中で、公共図書館に目を向けるべきか。本書はその問いに応えるために、公共図書館を取り囲む情報環境に目を向けている。

## 大関稔さん(商3) アマ囲碁「名人」も奪取



大関稔さん(商3) 位を奪取した。第12期朝日アマチュア囲碁名人戦(朝日新聞社、三番勝負)が7月29、30の両日、神奈川県「ゆがわら石亭」で打たれ、大関さんはアマ名人の平野翔大さん(立命館

大2年)を2連勝で降し、初のアマ名人となった。大関さんは「2局とも苦しい展開だったが、それの後半で巻き返し勝つことができた。昨年のアマ名人戦では準決勝まで

進んで敗れ、悔しい思いをしただけにとてもうれしい」と喜びを表した。大関さんは昨年、第62回全日本アマチュア本因坊決定戦全国大会(毎日新聞社)で優勝しており、アマチュア

生田キャンパス国際交流会館で8月5日、留学生の卒業式が開催された。同会館に滞在した留学生と、共に過ごした専大生の寮内留学生が涙と笑顔で別立っていった。

## 涙と笑顔で別れ 留学生「卒業式」

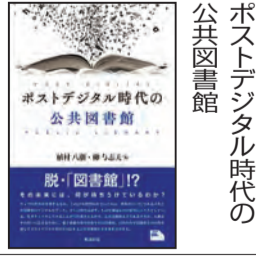


「卒業式」に参加した留学生と専大生

寮内留学前期プログラムは4月から8月まで、専大生13人がレジデント・パートナー(RP)として同会館に入寮。日本語学習を希望する外国人の留学生は「専修大学に

来て本当に良かった」などと語った。最後に全員で「旅立ちの日」を合唱。留学生、専大生とも涙で別れを惜しんだ。企画したRPの中村俊介さん(経営2)は「日本語で涙ながらにスピーチする留学生の姿を見て、言語や文化の壁はないのだと感じた。私たちがRPはこの寮内留学プログラムで、留学とは違った貴重な経験をしたことができた」と振り返った。

後期の寮内留学プログラムが9月6日、始まった。1年次生から4年次生まで15人が入寮。5日間のイングリッシュ・キャンプで日常英会話を特訓した。日本理解プログラムおよびJLC秋期、冬期コースの短期留学生を受け入れる。



電子書籍市場の実態、デジタルアーカイブの現状、さらに米図書館や大学図書館との比較を通して、ポストデジタル時代に対応する公共図書館の未来像を写す。共編者は、柳与志夫、著者に野口武悟(文学部教授)ほか。(勉誠出版 本体2000円+税) 編著者(うえむら・やしお) 文学部教授。主な担当は、出版学。